

論 文

地域デザイン教育プロジェクトにおけるアクティブ・ラーニング型授業の構想と実践

A Design and Practice of the Active Learning Class in Zone Design Education Project

飯塚 裕介

Yusuke MESHITSUKA

Key words: アクティブ・ラーニング型授業(Active Learning Class), 地域デザイン教育(Zone Design Education), 設計教育(Design Education), 事例紹介(Case Study)

1章 はじめに

(1) 背景

2012年の中教審(文部科学省中央教育審議会)の答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ(以下、質的転換答申)』では、「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要である」と述べており、学生の「受動的な受講」から「能動的な学修」への転換が求められている。

授業へのアクティブ・ラーニングの導入の進捗は分野によって偏りが大きく、工学部における設計教育のように元々アクティブ・ラーニング型の授業スタイルが取り入れられていて、既にノウハウが蓄積されている分野がある一方で、文系学部においては導入事例が少なく、個々の担当教員の創意工夫によってケースバイケースで対応されていることが少なくない。

(2) 目的

こうした背景から、本研究では文系学生に対するアクティブ・ラーニング型授業の実践事例として筆者らの取り組みを紹介すると共に、実践事例から得られた成果等

の分析により今後の導入に役立つノウハウを獲得することを目的とする。

(3) 論文の流れ

この目的のため、本論文ではまず2章において、筆者らの行った地域デザイン教育プロジェクトの取り組みを例に授業構想の際に工夫した点について紹介する。次に3章では授業の実際と受講者の反応についてアンケート結果などを元に述べる。最後に4章では、紹介した事例を踏まえて、文系学生が多数を占める授業にアクティブ・ラーニング型授業を取り入れる上での課題や留意点について述べる。

2章 アクティブ・ラーニング型授業の実践事例
「地域デザイン教育プロジェクト」

(1) 授業の概要

「地域デザイン教育プロジェクト」は、大東文化大学環境創造学部の3・4年生を対象に開講される前学期の「環境創造特殊講義C」、および後学期の「環境創造特殊講義D」として実施するアクティブ・ラーニング型の授業である。

本プロジェクトの目的は、受講者に課題施設・地域の利用者や周辺状況を分析し、自ら解決すべき課題を発見させること、及びその解決策としての空間デザインを提案する体験を通じて、建築単体の「モノ・コトづくり」ではなく、周辺地域、環境全体としての統合環境を学ば

せることである。街や建築を創り、マネジメントしていく人材には、多様な利用者・状況下での振る舞うかに思いを馳せる想像力と、安全・安心・快適な利用を妨げる問題点を発見する問題発見力、具体的な解決策を提案する解決型思考が求められる。本プロジェクトはこれらを学生らに学修させる効果を期待して計画したものである。

2016年度は前学期に3課題、後学期に2課題を課し、各課題に最大9週間の課題期間を設けて取り組ませた。授業スケジュールを表1、各課題の内容を表2および表3にそれぞれ示す。

(2) 授業計画に際して特に配慮した点・工夫した点

本プロジェクトの課題設計にあたっては、架空の地域・施設を対象とすることにより理想的な想定下での課題設計も可能であったが、フィールドワークが容易な大学近隣の実在する地域・施設を対象とすることにより、地域の歴史や周辺地域の影響など多様な要素が絡み合った、より現実的な課題を計画した。

本授業が開講される環境創造学部は文理融合型の幅広いカリキュラムを有するが、図面や模型の作成を含む授業は他にはなく、受講者の全員がこの授業ではじめて図面作成や模型製作に取り組むことになる。そのため、授業計画に際しては、授業内で図面作成や模型製作の方法

に関する技術指導を行うようにした。ただし、本プロジェクトの目的は模型作成等の技術習熟ではないため、授業中の技術指導は基本事項の解説を作業前にレクチャーする程度に留め、フィールドワークやグループでの話し合いに多くの時間を割いて、本来の目的である地域の問題発見力と解決型思考の学修を達成できるように配慮した。なお、技術力の不足を補うため、作業中は事前に技術を習熟させた学生アルバイトSA (Student Assistant) に補助させた。また、スケール感覚の不足を補うため、基準となるサイズの空間 (例えば1坪や100平米) のスタyroフォーム片を多数用意し、それらを並べたり積み木のように積み上げたりすることで、空間サイズをイメージしながら検討できるように工夫した。

授業で模型や図面の制作を行わせる場合は、作成中の模型や図面等の資料を一時的に保管しておくスペースが学内にあることが望ましいが、本学では十分なスペースを用意できないことから、担当教員である筆者の個人研究室の一角を一定期間使用させるなどして対処せざるを得なかった。こうした対処法は受講生が少ない場合は問題ないが、受講生が私大文系学部ではしばしば見られる100名を超えるような多人数授業では到底不可能であり、同様の授業を継続的に行うためには保管スペースの確保が課題と言えよう。

【表1】2016年度 地域デザイン教育プロジェクト

前学期 環境創造特殊講義C 授業スケジュール

回数	実施日	授業内容
1	4月13日	ガイダンス
課題1		「自分の部屋の実測と図面化」
2	4月20日	フィールドワークと図面作成の基礎
課題2		「集合住宅のインテリアデザイン」
3	4月27日	課題説明, スライドレクチャ
4	5月11日	エスキースチェック
5	5月18日	優秀者プレゼンテーションと振り返り
課題3		「7人の芸術家と子どもたちの村」
6	5月25日	課題説明, グループ分け, 敷地確認
7	6月1日	スライドレクチャ, テーマ発表
8	6月8日	模型の作り方
9	6月15日	図面の描き方
10	6月22日	エスキースチェック①
11	6月29日	エスキースチェック②
12	7月6日	エスキースチェック③
13	7月13日	最終発表会
14	7月20日	課題の振り返り, 図面および模型の返却

後学期 環境創造特殊講義D 授業スケジュール

回数	実施日	授業内容
1	9月21日	ガイダンス, 課題説明
課題1		「高島平地域の強み・弱みと課題」
2	9月28日	フィールドワーク (高島平2丁目)
3	10月5日	高島平2丁目エリアの特徴整理
4	10月12日	フィールドワーク (高島平3丁目)
5	10月19日	高島平3丁目エリアの特徴整理
6	10月26日	フィールドワーク (高島平7・8丁目)
7	11月9日	高島平7・8丁目エリアの特徴整理
課題2		「高島平地域の地域課題に対する私たちの提案」
8	11月16日	課題説明, グループ分け
9	11月23日	グループワーク①
10	11月30日	グループワーク②
11	12月7日	グループワーク③
12	12月10日	グループワーク④, ゲスト講師講演
13	12月21日	グループワーク⑤
14	1月11日	課題提出, 最終発表会準備
15	1月18日	最終発表会, アンケート

【表2】前学期の課題内容(2016年度前学期 環境像特殊講義C)

課題1 自分の部屋の実測と図面化

課題内容:

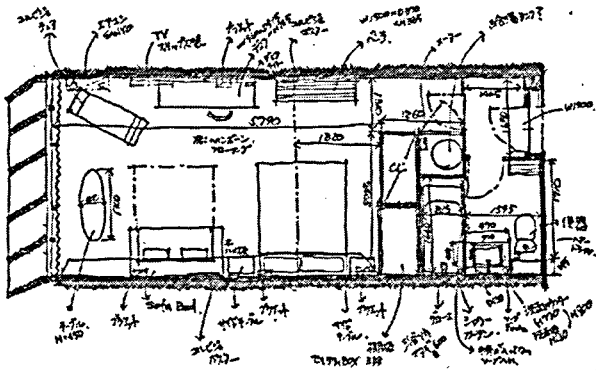
この課題は、自宅の一室(自室あるいは任意の居室)の空間や家具の寸法を計測した上で、手本となる図(下図)を参考に縮尺1/30で図面化させた。部屋の外形だけでなく家具などの内容物もできる限り詳細に表現することとした。

提出物: 平面図(A4用紙1枚)

課題期間: 2週間

出題意図:

空間をデザインする前の準備体操として、空間の大きさに対する感覚を身に着けさせることを目的とした課題である。普段何気なく過ごしている空間や使っている家具の大きさを測って数値として認識させる経験を通して、抽象的な空間感覚と寸法を伴う空間デザインを対応付ける基準を各受講生の中に設けることを狙っている。



出展: 鈴木友則@デザインスタジオ パオパブ

課題2 集合住宅のインテリアデザイン

課題内容:

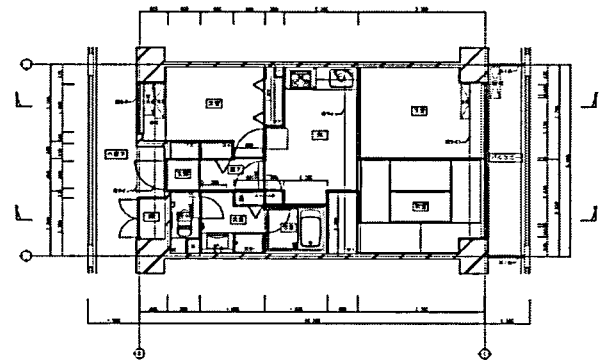
東京都港区芝浦に実在する築25年の賃貸マンションの1室を対象に、どのような居住者がどのような生活を営む空間かを自由に想定させた上で、そのインテリアデザインを提案させた。タイトル、設計主旨、平面図のみを要求図面とし、断面図や矩計図、パースなどはその他の図面として希望者のみ提出させた。また、図面表現が難しい場合は、文章やイメージ写真など図面以外の表現による提案も認めた。内部の間取りは自由に改変してもよいものとした。

提出物: 平面図(A3 1枚, 設計主旨 A3 1~2枚)

課題期間: 3週間

出題意図:

比較的小規模の住宅を対象に、居住者の人物像やライフスタイルに想像力を働かせて、居住者が望む住空間の有り様を考えさせる。



対象住戸の平面詳細図(従前)

課題3 7人の芸術家と子どもたちの村

課題内容:

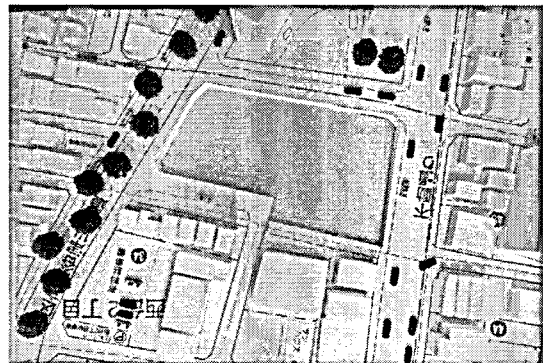
1グループ6~7人のグループを作り、大学近隣に実在した2000平米程度の空地を敷地として、6~7人の芸術家(画家、音楽家、舞踏家、陶芸家、書道家、彫刻家、写真家)の住宅を含む複合施設を提案させる。グループで敷地全体のコンセプトや建物配置、住居以外の施設を計画させた上で、受講者個人には芸術家のための住宅1棟を設計させる。

提出物: 全体計画図(A3用紙1枚), 住戸の各階平面図
200分の1スケールの模型

課題期間: 7週間

出題意図:

最終発表会では周辺部を含む敷地模型を用いてプレゼンテーションを行った。敷地模型のうち、敷地部分を



除く部分の模型は担当教員側で用意し、受講者らには四季部分にはめ込めるような仕様で外構を含む敷地全体の模型を作成させた。

【表3】後学期の課題内容(2016年度環境創造特殊講義D)

課題1 高島平地域の課題

課題内容：

フィールドワーク等をもとに高島平地域の課題を分析しなさい。また、分析で明らかになった課題の一部(または全部)について、具体的かつ現実的な改善策を提案しなさい。

提出物：

ポスター(A3用紙2~4枚)

課題期間：

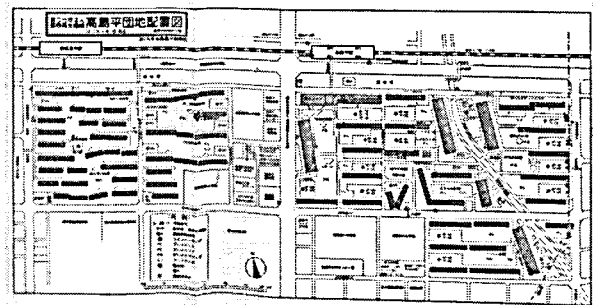
6週間

出題意図：

本学の板橋キャンパスが所在する東京都板橋区高島平地域は、東京への人口流入による住宅不足解消の受け皿として、昭和40年代後半から昭和50年代前半にかけて一時に誕生した街である。当初は若いファミリー世帯が多く、地域のシンボリック存在である高島平団地を中心に、街全体がにぎわいと活力に溢れていたが、40年以上が経過した現在では、団地を始め同時期に整備された公共・公益施設等の老朽化と少子高齢化の進行等により、地域の活力が低下し始めている。また、商業施設の偏在や商業活力の低下、大規模な街区形成や生活支援機能の配置

が現在の生活スタイルに合っていない等の課題が発生し、地域全体のにぎわいやブランド力の低下を招いている。板橋区は高島平地域の中長期のまちづくりの理念や将来像、進むべき方向性を示した「高島平地域グランドデザイン」を2016(平成27)年10月に策定し、その実現に向けた具体的な方策の検討を進めているが、若年層の視点からの提案やまちづくりへの参加が課題となっている。こうした背景から、当該授業では高島平地域の地域課題を学生に考えさせることとした。

本課題ではフィールドワークで見聞きした事柄や各種の統計情報等を元に地域課題を自ら発見できるようにすることを到達目的とする。



課題2 高島平地域の地域デザイン

課題内容：

課題1で発見した高島平地域の地域課題の一部(または全部)について、具体的かつ現実的な改善策を提案しなさい。

提出物：

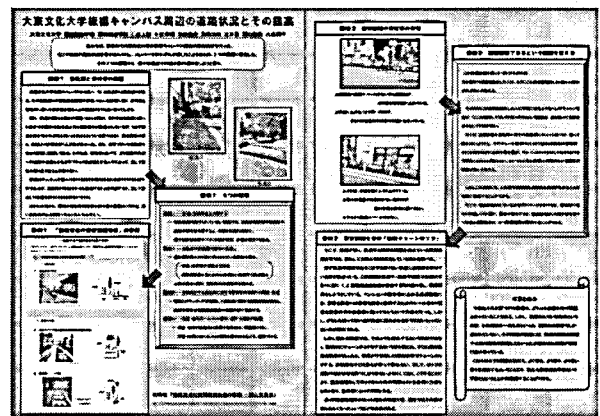
ポスター(A3用紙1~2枚), PowerPointスライド

課題期間：

9週間

出題意図：

課題1で発見した課題について、自ら解決策を提案させる課題である。



学生による提出物(ポスター)の一例

3章 授業の実践と結果

本プロジェクトの教育効果を検証するため、後学期最終回授業の出席者 27 名を対象にアンケート調査を実施した。設問内容と集計結果を表 4 に示す。

アンケートの集計結果を見ると、いずれの設問も「とても思う」「やや思う」の合計は過半数に達しており、多くの受講者にとって満足度の高い授業であったことが読み取れる。その一方で設問オおよび設問ケは「やや思わない」「思わない」と回答した者が 3 割を超えており、課題発見から有効な解決策の提案までの一連の作業を 1~2 ヶ月間の期間中に自らペース配分して進めることに苦

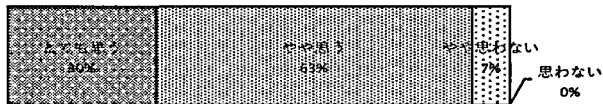
労した者も少なからずいたことが読み取れる。このことは同様の授業が学生のプロジェクトマネジメント能力の訓練としても機能しうることを示唆している。

4章 まとめ

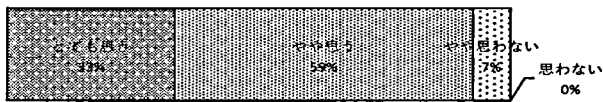
本研究では、空間デザインを題材とした AL 型授業の実践事例から、課題設定や授業運営上の工夫を紹介すると共に、制作や保管のためのスペース確保といった施設側の課題について指摘した。また、受講者アンケートの結果から、本授業の副次的効果としてのプロジェクトマネジメント能力育成の可能性について指摘した。

【表 4】受講者アンケートの結果

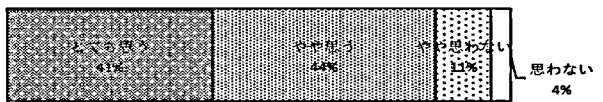
(ア) 問題発見・解決に必要な情報を文献やネットから収集・整理できた



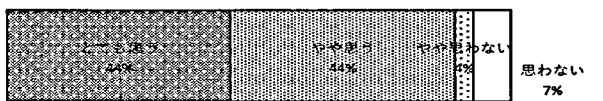
(イ) 図面・ポスター・模型などの表現方法に関する知識や技術が身についた



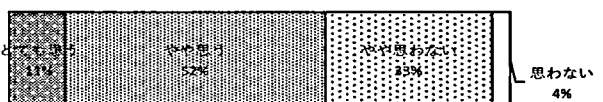
(ウ) フィールドワークの段取りやマナーなどの実践的な技術が身についた



(エ) チームのメンバーと相談しながら協働して課題に取り組むことができた



(オ) スケジュールを立てて計画的に課題に取り組むことができた



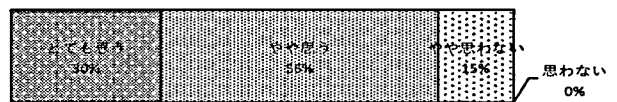
(カ) 地域の課題を地域に暮らす・働く人々の目線に立って想像することができた



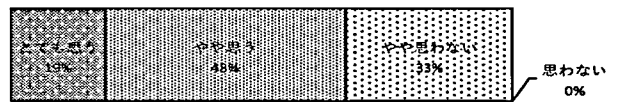
(キ) 対象地域に関わるさまざまな要素を総合的に捉えることができた



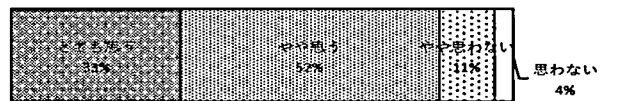
(ク) 対象地域の状況を主体的に調査・整理し、課題を発見することができた



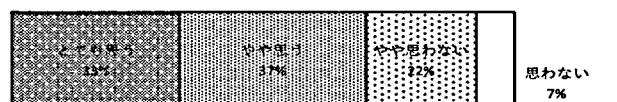
(ケ) 課題解決のための具体的かつ有効な提案をすることができた



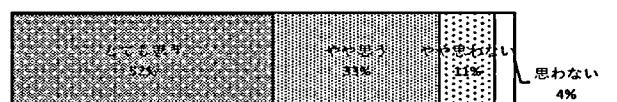
(コ) 授業の内容や成果を未参加の方々にも知って欲しいと思う



(サ) 本授業のようなアクティブラーニング型の授業をもっと受講したい



(シ) 授業の内容を今後の学習や就職活動、就職後の仕事に活かしていきたい





【図1】スタイロフォームを用いたボリュームスタティ
(前期・課題3)



【図4】緑地・公園のフィールドワーク
(後期・課題1)



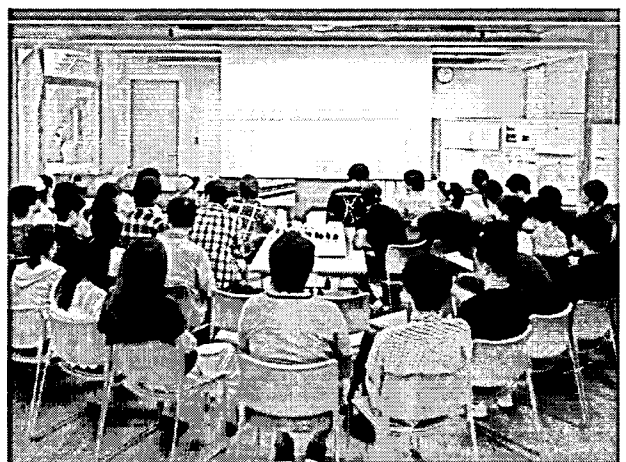
【図2】模型の作り方レクチャーの様子
(前期・課題3)



【図5】フィールドワーク後のチームミーティング
(後期・課題1)



【図3】公共施設(図書館、警察署、郵便局)の調査
(後期・課題1)



【図6】講評会の様子
(前期・課題3)